

# 2

## 性別によってイメージを固定化した表現になっていませんか？

### 2-1 男女を固定的に描いていませんか？

「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担を強調したり、性別で職業を分ける表現ばかり用いるのではなく、男女が仕事や家事・育児で協力したり、様々な職業に就いたりしている現実を反映させる表現を心がけましょう。



弁護士はいつも男性でしょうか？  
現実には、弁護士の約1割、司法試験の合格者の約4分の1が女性です。

### 2-2 いろいろな個性を表現しましょう

好みや行動は人それぞれです。固定的な性別イメージだけで表現せずに、多様な現実を反映させ、男女それぞれを幅広いイメージで表現しましょう。



男の子は球技、女の子はなわ跳びなどと性別で分けて画一的に描きがちですが、現実には、男の子も女の子も様々な遊びをしています。



## 固定的なイメージにとらわれず、 多様な現実を反映させましょう。

現実には、性別に関係なく、職業、社会的地位、外見、関心、性格、年齢などで多様な人々が存在します。また、家庭形態や家庭での役割分担などのライフスタイルも様々です。

広報での登場人物を分かりやすく表現しようとするあまり、固定的な役割分担意識や性別イメージにとらわれた画一的な表現にならないよう心がけ、多様な現実を反映させた表現を工夫しましょう。

固定的なイメージにとらわれた表現では、すべての人に正しく伝えられない可能性もあります。

### 2-1 役割分担、職業の性別イメージ

「男性は仕事、女性は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識にとらわれて、現実の多様性への配慮がない表現にならないよう留意する必要があります。

例えば、育児や介護の姿が常に女性であったり、家庭の情景を女性が男性を世話する様子として当然に描いたりしがちです。

また、職業、職務によって男女が区別される表現になっていないかにも注意する必要があります。

例えば、技能や体力を要する職業には男性だけを、外見の美しさや心配りを期待される職業には女性だけを登場させたり、女性を補助的の仕事やお茶くみなどの雑用をするものとして描いたりすることには注意が必要です。

### 2-2 服装・外見、興味・関心、性格・行動の性別イメージ

服装・外見、興味・関心、性格・行動については、「男なら〇〇」、「女なら△△」と画一的に表現しがちですが、現実の多様性を踏まえて、固定的なイメージの押しつけにならないよう配慮することが必要です。むしろ、広報としては、多様で新鮮な表現を求める姿勢が望まれます。

例えば、服装については、女性はスカート、男性はスーツで画一的に描いたり、外見については、背丈や体格の違いを性別で強調して、個人差を無視しがちです。

興味・関心については、男性は力強いものや論理的なものを、女性は穏やかなものや情緒的なものを好むとし、男の子はサッカーや理科、女の子はままごとや読書を好むとする表現がよく見られますが、個性が多様であることを忘れがちです。

性格・行動については、男性たくましく積極的に、女性は優しく控えめに描きがちですが、性別だけで性格や行動が決まるものではありません。